

ICTジュニアチャレンジ アジア・オセアニア国別対抗戦 報告書

国体育成委員会 中村吉人

ICTジュニアチャレンジ 2015 年アジア・オセアニア国別対抗予選大会にコーチ 2 名選手 4 名で参加してきましたので詳細を報告させていただきます。

この大会は、地域大会と世界大会が隔年で行われています。2013 年には地域大会が日本で開催され見事優勝して世界大会の出場権を獲得しました。2014 年にはイギリス、ウインブルドンで行われた世界大会に遠征し世界のトップジュニアと対戦することができました。参加した選手はその後の日本の大会でもすばらしい活躍を見せています。

今年は、シンガポールで世界大会出場をかけての予選会が行われました。予選会は、日本・シンガポール・ニュージーランド・パキスタン・イスラエルの 5 か国が参加しました。

出発前に、日程の都合で前回の大会で大接戦をしたオーストラリアが参加できないとの情報が入っていたので、連続優勝を目標に遠征をしました。結果は、選手が最高のパフォーマンスを発揮してイスラエル、パキスタン、ニュージーランドの強豪を相手に連勝して 2016 年モナコで行われる世界大会の出場権を獲得しました。

「大会の詳細」

大会名：ICTジュニアチャレンジ 2015 年アジア・オセアニア国別対抗予選大会

大会概要：ジュニアプレーヤー 4 名とキャプテン、専属コーチからなる 4～6 名チームによる国別対抗戦大会。

優勝国チームは 2016 年モンテカルロ開催される決勝ラウンドへの出場権を得る事となります。

<http://www.monaco.ictennis.net/InternationalClub/Comité.aspx>

試合形式は男女シングルス各 2 試合・男女ダブルス各 1 試合プレーされ、各試合は 1 ポイントにカウントされます。その結果、一番多くの試合に勝ったチームが勝利国となります。勝敗が 3 対 3 となった場合はミックスダブルスによる 10 ポイントマッチタイブレークを行い勝敗を決定いたします。

会場：Winchester Tennis Arena <http://wc.socialoctet.com/>
12A Winchester Road, Singapore 117786-indoor hard courts

宿泊ホテル：City Beach Resort, 8 Port Road, Singapore 117540.

大会ルール：ITFルールを採用

参加選手年齢：16 歳以下で大会開催日までに 17 才の誕生日を迎えていない選手に限る。

大会内容：16歳以下の各国ジュニア選手の間にはスポーツマンシップと国際親善を促進するというIC精神をジュニアプレーヤーたちと共有する。

参加国：日本・シンガポール・ニュージーランド・パキスタン・イスラエル

遠征日程：2015年10月26日（月）～10月31日（土）

26日（月）：各国選手入国
27日（火）：各国選手練習日 ☆ウェルカムディナーパーティーなど
28日（水）：試合
29日（木）：日本チーム 練習 試合観戦
30日（金）：試合 表彰式
31日（土）：各国選手団帰国

代表選手： 武藤洸希 田形諒平 安藤優希 細木祐佳

※10月26日 羽田8時50分発 SQ（シンガポール航空）631

集合 6時50分 羽田空港国際線ターミナル出発カウンター
シンガポール航空チェックインカウンター

15時25分 シンガポール 着

10月31日（土）シンガポール8時05分発 SQ 632 15:35羽田着

持ち物：パスポート、テニス道具、常備薬、筆記道具、その他個人的携行品は各自で用意して持参して下さい。（洗面道具、パジャマ、勉強道具など）

引率者：鷲田 典之 ██████████ 中村 吉人 ██████████

試合結果報告

10月28日 参加国5ヶ国が2ブロックに分かれ試合を行い勝率の良いチームが決勝に進出する方式で行われました。

1ブロック ニュージーランド・シンガポール

2ブロック 日本・イスラエル・パキスタン

◎日本は初戦 イスラエルに5勝1敗で勝利



(NO1安藤、SD2勝して勝利に貢献)



(NO2細木はSは敗退したがDで活躍を見せた)



(男子は苦戦しながらもSD全勝)

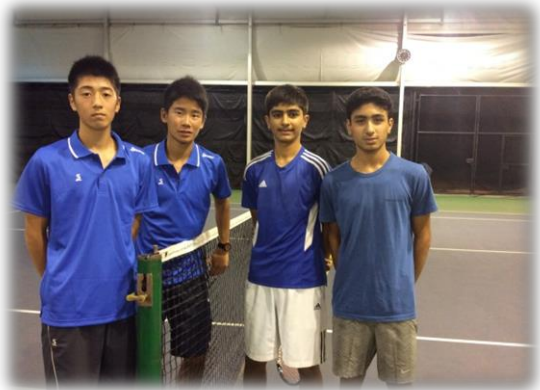


(イスラエルに5勝1敗で勝利)

◎パキスタンに6勝0敗で勝利、決勝進出を決める



(夜7時00分スタート女子SD3勝を挙げた)



(男子も健闘してSD3勝しました)

◎10月29日 28日に2対戦行っただので練習日となった。



(たっぷり2時間の練習)



(練習後WTAファイナルの観戦)

◎10月30日 決勝戦 ニュージーランドに4勝2敗で勝利して優勝を決めた。



(試合前のフォト撮影)



(3勝を挙げて優勝に貢献した女子)



(強敵を相手にS、一勝して健闘した男子)



(総合力で優勝したIC日本チーム)

今回の大会は、日本で行われたアジア・オセアニア大会で大接戦を演じたオーストラリアが日程の都合で参加していないので、普段通りの力を出せたら2連勝できるという希望をもって遠征しましたが、会場に着き各国の練習を見てみるとレベルの高さにびっくりしました。

参加選手は、自分の最高のパフォーマンスを出さないと、勝ちきれないということに気付かされたと思います。特に初戦で対戦するイスラエルはATPポイントを獲得している選手がチームを牽引し練習時からチームワークの良さを発揮して素晴らしい練習をしていました。

日本チームは、イスラエルが力を出し切る前に勝ってしまおうということで、入念な準備をして試合に臨んだのが功を奏し、男子が相手選手のパワーを封じ込め、シングルス2勝を挙げてくれました。女子は、ダブルスからスタートしたのがラッキーでした。日本チームはコンビネーションの良さを発揮して6-26-1で快勝しました。日本は、先に3勝をあげて勝利に大手をかけましたが、2ラウンドに入った女子S1・S2、男子Dの3試合とも流れが一変して、押され気味の展開となりました。イスラエルにとってはまさかの3連敗だったと思います。どの選手も気合が入り途中では3勝3敗のミックスダブルスのことも頭によぎったほどでした。そこで、なんとか、NO1の安藤優希がファストセットを挽回して6-4でとるとセカンドも6-1で押さえ勝ちを決めてくれました。

その後男子ダブルスもスーパータイブレークで勝利して5勝1敗で初戦を総合力で勝つことが出来ました。

2Rのパキスタン戦は、夜7時からのスタートもかかわらず各自持ち味をだし全勝して1日目を終えました。

決勝戦は予想通りニュージーランドが相手となりました。

試合は2面を使い 男女S1 男女S2 男女D の順に入りましたがスコアは次の通りになりました。

×男子NO1 田形 4-63-6 ○女子NO1 安藤 7-5 6-2 で1勝1敗
○男子NO2 武藤 6-36-2 ○女子NO2 細木 7-6 (8) 6-1で3勝1敗
×男子D 田形・武藤4-63-6 ○女子D 安藤・細木6-16-3 4勝2敗

シングルスで3本とれたのが大きな勝因でした。男子NO2の武藤は昨年の世界大会に参加しており、その経験を十分に活かしてくれたと思います。試合に入る前から自分の戦法にはめると何とかなるといっていたように、自分よりランキングの高い選手に見事勝ち切りました。

細木は初戦イスラエル戦に負けてプレッシャーのかかった試合となりましたが、ファーストセット、タイブレーク1-5から、挽回してとるとセカンドは6-1で勝利を得ました。

この大会、参加した選手は持っている力を十分に発揮してくれたと思います。

世界大会への権利を獲得したので、これからまた選手が世界大会でも力を出せるように強化していきます。

今年でシンガポール遠征は3回目になりますが、今回も私たちの滞在期間中シンガポールICの方のサポートがとても良く、空港に着いてから帰るまで快適に過ごすことができました。試合や練習は勿論のこと、ウェルカムパーティや表彰式では、各国とのコミュニケーションの場をたくさん提供していただき選手間の絆ができていたのを感じました。また、試合の中日29日にはWTAファイナルのラドワンスカ VS ハレブの試合を観戦しないかという提案がありチケットまで手配していただきました。このようなICならでのサービスを受けて日本チームは最高の状態で試合に臨むことができました。今回の優勝は日増しに上達を見せた選手諸君の頑張りもありますが、このような環境でプレーできたことが大きな勝因だったように思います。

この計画をしていただいた日本ICの吉井さんや、大会をサポートしていただいたシンガポールICの役員の方に深く感謝いたします。また、シンガポール在住の野田様にも滞在期間中いろいろな面でサポートしていただきました。有難うございました。今後もこの大会がより発展するのを強く願っています。

最後になりますが、東京都テニス協会様には、このような貴重な経験を与え活躍の場を作っていただけることに大変感謝いたします。 御礼申し上げます。

シンガポール遠征報告とさせていただきます。

以上